

青山学院大学 物理・数理学科 コロキウム

2016年度 第4回

下記の通りコロキウムを企画致しました。学生や分野の違う方にもわかるレベルから始めて下さるようお願いしてあります。

是非ともご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

(世話人：竹内 祥人、連絡先：042-759-6550)

講演者 吉田 哲也 氏 (宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所)

日時 6月30日 (木) 午後5時00分から

[いつもと時間が異なります]

場所 青山学院大学 理工学部 L棟6階 L603室

講演題目 「大気球～宇宙への入り口」

成層圏から中間圏下部を飛翔するポリエチレン気球は、人工衛星、観測ロケットなどと並ぶ宇宙科学研究を実践する重要な飛翔体である。日本では、1965年より当時の東京大学宇宙航空研究所が一元的に運用し、1971年から2007年まで岩手県三陸町の三陸大気球観測所で400機以上の大気球実験を実施した。2008年からは、北海道大樹町の大樹航空宇宙実験場を拠点にJAXA宇宙科学研究所が大気球実験を推進している。

大気球の飛翔機会を利用して、天文学、宇宙物理学、地球惑星科学、宇宙工学、宇宙環境利用科学と幅広い分野の研究が行われている。回収した実験装置をアップグレードしながら研究を進めていく特徴を生かして、実験装置の検証から最先端の研究までさまざまなレベルの実験が可能である。加えて、比較的小規模のプロジェクトとして若手の研究者や大学院生が実験全体を俯瞰しながら参画できる人材育成の場としての役割も大きい。各国の宇宙機関も、学術研究に供する飛翔機会として、それぞれ特色ある成層圏気球の運用と開発を続けているところである。

本講演では、大気球実験が提供する飛翔機会の特徴を紹介し、また次世代気球開発による大気球実験の将来を展望したい。